| | |
|---|---|
| 事例No. | 693 |
| 公表年度 | H30 |
| 団体の属性 | 一般市 |
| 団体名 | 岐阜県中津川市 |

| | |
|---|---|
| 事例区分 | 第三セクター |

| | |
|---|---|
| タグ | ・会社法法人<br>・公共施設活用<br>・歳入確保 |

| | |
|---|---|
| 事例種類 | 法人の統廃合等を行った事例 |

事例内容・タイトル

許認可事業の株式譲渡による民営化

出典

第三セクター改革等先進事例集

| | |
|---|---|
| 事例名 | 許認可事業の株式譲渡による民営化 |
| 団体名 | 岐阜県中津川市 |
| 法人名 | (株)クアリゾート湯舟沢 |

＜地方公共団体のデータ＞

| | |
|---|---|
| 人口(人) | 78,951 |
| 標準財政規模(百万円) | 24,039 |
| 財政力指数 | 0.49 |

※人口は、住民基本台帳に基づく人口(平成 30 年 1 月 1 日時点)
標準財政規模及び財政力指数は、平成 29 年度決算の数値

＜法人データ＞

[出資等の状況]

| | |
|---|---|
| 中津川市 | 41( 50.6%) |
| その他 | 40( 49.4%) |
| 役職員数(人) | 32 |

[経営状況]

| | |
|---|---|
| 経常収益 | 440 |
| 経常損益 | −27 |
| 当期純損益 | −27 |

(単位:百万円)

| | |
|---|---|
| 資産 | 344 |
| 負債 | 351 |
| 純資産 | −7 |

※ 出資等の状況は、法人格がなくなった時点(清算結了時)又は出資引揚時点での出資の状況
経営状況は、法人格がなくなった時点(清算結了日)又は出資引揚時点までに終了した直近の会計年度の決算

[法人概要](設立目的、業務概要等)

(株)クアリゾート湯舟沢は、中津川市の重要な観光拠点として、市民の余暇の利用及び健康の増進を図ることを目的に建設された、日帰り温泉、プール等を有する「中津川市健康温泉館」(市所有)と、隣接の宿泊施設「ホテル花更紗」(同法人所有)を管理運営するために平成 6 年に設立された法人である。

＜開業に至る経緯((株)クアリゾート湯舟沢及び中津川市健康温泉館)＞

H2 ふるさと創生資金 1 億円を活用し神坂温泉湧出
H5 第三セクター設立準備会を設置
H6 (株)クアリゾート湯舟沢の創立 資本金:8,100 万円(1 株 100 万円)
株主:中津川市 4,100 万円(50.6%)、他企業 28 社 4,000 万円(49.4%)
H7 「市民の余暇の利用及び健康の増進を図る」ことを目的に健康温泉館をオープン、第三セクター(株)クアリゾート湯舟沢による管理運営を開始
第三セクター(株)クアリゾート湯舟沢が、ホテル花更紗をオープン
中津川健康温泉館では、市の「高齢者湯待事業」「障害者湯待事業」を開始
H20 指定管理者制度の導入により、(株)クアリゾート湯舟沢による指定管理の開始





1．本事例の概要（取組の内容、ポイント）

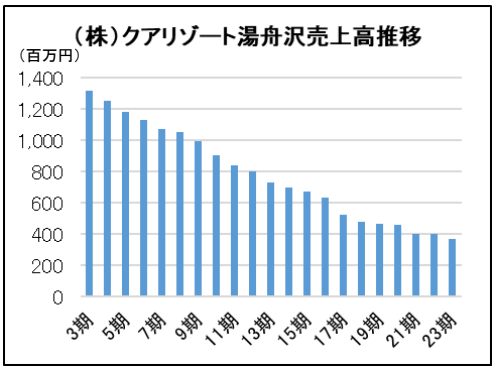
平成 28 年 11 月に、市の将来負担を軽減するため行財政改革の一環として、市有施設「中津川市健康温泉館」の民間譲渡にともない、管理運営会社の第三セクター（株）クアリゾート湯舟沢を売却。

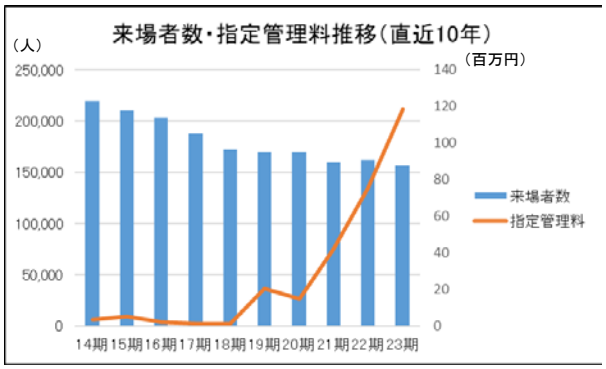
複数の許認可事業を株式譲渡により承継することにより、譲り受けた事業者の経営安定にもつなげることができた。民間ノウハウを発揮した経営により、収支均衡が図られた運営がされており、今後の黒字経営へ期待している。

2．取組の背景、理由、着手のきっかけ

開業から 10 年間は、地域経済に大きな恩恵を与える施設として盛況に運営がされてきた。しかし、年々利用者の減少により、収益も徐々に減少し、平成 16 年（11 期）には赤字へ転落した。施設の老朽化も進み、更に利用者の減少に歯止めがかからない状況が続き、経営状況が著しく悪化したことから指定管理料（市の負担）の増加を余儀なくされ、平成 25 年から平成 28 年までの 4 年間の総額は 2 億 5 千万円に上った。

市は、将来負担を軽減するため行財政改革の一環として、平成 26 年 3 月に策定した公共施設の再編方針を定めた、市有財産（施設）運用管理マスタープランに基づいて平成 28 年度までに民間譲渡を実施する方針を決定した。




＜民間譲渡前の経営状況及び指定管理料、来場者数の推移＞　　（単位：千円、人）

| | 20 期(H24.10-H25.9) | 21 期(H25.10-H26.9) | 22 期(H26.10-H27.9) | 23 期(H27.10-H28.9) |
|---|---|---|---|---|
| 売上高 | 457,397 | 397,089 | 397,354 | 366,719 |
| 経常損益 | ▲ 23,000 | ▲ 26,814 | 14,310 | 23,360 |
| 指定管理料 | 14,762 | 42,416 | 75,251 | 118,452 |
| 来場者数 | 170,249 | 159,407 | 162,340 | 157,017 |

＜民間譲渡に至る経緯＞

H8（3 期）　来場者は 34 万人、売上げは 13 億円、黒字で順調なスタートを切ることができた。

H16（11 期）　年々来場者、売り上げが減少し平成 16 年（11 期）には赤字に転落。

H25（20 期）　市は、将来負担を軽減するため行財政改革の一環として、公共施設の再編方針を定めた、市有財産（施設）運用管理マスタープランを策定。
中津川市健康温泉館は施設の老朽化も進み、経営破綻が懸念されるため、平成 28 年度末（H29.3 末）までに民間譲渡する方針を決定した。

H26（21 期）　来場者は 16 万人、売上げは 4 億円足らずと大きく減少した。開業から 19 年が経過し、施設が老朽化し、更に利用者の減少に歯止めがかからない状況が続いた。

H28（23 期）　公募を実施した結果、市外の一社が応札。11 月に民間譲渡完了。

3．取組の具体的内容

(1)取組方針とその決定過程

民間譲渡は、全国公募による民間事業者を募集した。今後も中津川市の重要な観光拠点として長期にわたり継続して運営することを前提とした民間事業者の企画提案を採用し、市所有で第三セクター㈱クアリゾート湯舟沢が指定管理する「中津川市健康温泉館」と、同第三セクター所有の「ホテル花更紗」を平成 28 年 11 月に民間事業者へ譲渡した。

(2)取組の具体的な進め方

事業継続ができる状態で譲渡することは譲り受けた事業者の経営安定に繋がるため、複数の許認可事業を株式譲渡により承継することが最も合理的な方法であった。このため、民間28社が所有する40株を市が取得し、市所有の41株と合わせて民間事業者に譲渡し、(株)クアリゾート湯舟沢は完全民営化となった。

また、譲渡した健康温泉館は建設から 20 年以上が経過しており施設の老朽化による修繕が今後見込まれることから、施設を取得する民間事業者等の経営負担の軽減を図るため民間譲渡から 5 年を限度とし、固定資産税相当額(年間 8,000 千円程度)を補助し、民間譲渡後の施設経営を支援する仕組みを整えた。

4．取組の効果

民間譲渡後も、市の重要な観光拠点として長期にわたり継続した運営が期待できる。

第三セクター(株)クアリゾート湯舟沢の管理運営では、直近 4 年間で 2 億 5 千万円、直近1年では 1 億 1 千万円の指定管理料(※)がかかっていた。民間譲渡後 2 年が経過した現在では、家族利用者向けの子どもの遊び場の設置、新たな魅力の創出としてグランピングの導入など、民間ノウハウを発揮した経営により、収支均衡が図られた運営がされている。来場者数は、平成 29 年度は 135,000 人、平成 30 年度は 140,000 人と増加している。第三セクター時より減少しているが、ニーズに合わせた料金設定により客単価は大幅に増加し今後の黒字経営へ期待ができる。

民間譲渡先の会社は、平成 30 年度より近隣の旧小学校を改装した研修施設の指定管理も受託し、健康温泉館と一体的な活用を行っている。

(※)指定管理料については、第三セクターと市の決算時期が異なるため、市の支出年度と一致しない。

5．今後の課題(今後の方針、残された課題等)

施設の民間譲渡の際、全国公募を実施したが、応募数は1件のみであった。
市の地域振興及び観光の用途として 10 年間の事業継続を条件としていたが、今後の施設譲渡時には募集条件の見直しの検討が必要である。

＜参考＞地方公共団体の問合わせ先

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当課 | 中津川市財務部資産経営課 | 連絡先 | 0573-66-1111(内線 335) |